

スピーチ活動と英語の歌の実践

— 第一学年の指導を通して —

河 西 尚 子

I. はじめに

平成元年3月に告示された新学習指導要領における英語科の改訂は、国際化の進展に対応し、国際社会の中に生きるために必要な資質を養うという観点から、特にコミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培うことを重視するために、次の三つの基本方針に基づいて行われた。

- ① 読むこと及び書くことの言語活動の指導がおろそかにならないように十分配慮しつつ、聞くこと及び話すことの言語活動が一層充実するよう内容を改善する。
- ② 生徒の学習の段階に応じて指導が一層適切なものになるよう指導内容を、より重点化・明確化するとともに、生徒の実態等に応じ多様な指導ができるようにする。
- ③ 英語の習得に対する生徒の積極的な態度を養い、実践的な能力を身につけさせるとともに外国についての関心と理解を高めるよう配慮する。

この基本方針に基づき、英語科の目標と内容は、次のように改善された。

<目標>

- 国際化の進展に対応して、コミュニケーション能力を一層育成する。
- コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育てる。
- 外国及び我が国の言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う。

<内容>

- 聞くこと・話すことの指導の充実——音声による指導を重視し、特に第一学年の入門期においては配慮する。また、教育機器の有効な活用や、ネイティブ・スピーカーの協力などに配慮する。
- 文型・文法事項などの取扱いの弾力化——文型・文法事項などについて学年による配当の枠を外し、生徒の実態や指導の場面に応じて多様で活発な言語活動を行う。
- 授業時数の改善——各学年において年間105～140時間を標準とする。

今回の改訂は、本校英語科がこれまで摸索してきた方向と重なっており、心強く思うところである。本校では、ここ10数年来、聞く・話すことを中心に学習を進めてきており、生徒の話そうとする意欲は高まってきたと思う。しかしながら、マンネリ化も指摘されているところである。平成元年度からは、本校の研究テーマ「自ら学ぶ力を育てる学習指導」に基づき英語科では「豊かな表現力を伸ばす指導」と「自主研究を取り入れた学習」の両面から取り組んできている。本年度、私は久しぶりに第一学年の英語を担当したので、「意欲的に学習に取り組むための授業はどうあるべきか」を取り上げ研究することにした。

II. 研究のねらい

本校では、「自ら学ぶ力を育てる学習指導」をメインテーマにして、各教科で必要なテーマを設定している。そこで、英語科では「豊かな表現力を伸ばす指導」及び「自由研究を取り入れた学習」の両面から追求している。しかしながら、一年生の段階では、聞く・話す活動を中心として身近な事柄について、初歩的な英語で表現する力を育てることと、英語学習にいかに関心し、興味を育てることの二つが主な指導のねらいになっている。そこで、私は、入門期の一年生を対象にして「意欲的に英語学習に取り組むための授業はどうしたらよいか」ということをテーマに取り上げ、実践することにした。そこで、三つの指導工夫を試みた。即ち、①英語に関心し、興味をもって聞く・話す活動が出来るようにNHK基礎英語の各自視聴を勧め、授業でも併行して扱うことによって、意欲の向上に役立てる。②豊かな表現活動が身につくようスピーチ活動を積極的、継続的に取り上げる。③英語に関心し、楽しく学習に取り組むために指導にゲームや英語の歌を計画的に取り上げる。

これらのうち、本研究紀要では、②のスピーチ活動及び③英語の歌の導入による授業実践の状況を報告し、その問題点を考察するのがねらいである。

III. 実践と考察

1. スピーチ活動について

指導の工夫として、一年生のスピーチ活動は次のような方法で行った。

- 授業の最初10～15分を使って、出席順に1名ずつ発表する。
- 発表後、その内容についてコメントや質問をする。
- 未習語はあらかじめ黒板に書いておく。
- 各自に評価表（参考資料②参照）を持たせ、友達のスピーチを評価したり、自分のコメントを記録したりする。

次に、入門期の一年生の取り組みや、感想を述べることによって、一年生でも早い時期からスピーチ活動に参加できることを述べてみたい。なお、これは今年度実践した内容なので4月～12月までの期間の実践である。

(ア) 一学期の取り組み

入学後、第一回目の授業は、英語でのあいさつから始めた。右のプリントを簡単に説明した後、生徒は、漢字、ローマ字で線上に自分のことを書いた。中には英語で書くものもいた。これをもとに、次時から出席順に原稿を見ないで言えるようにすることを課題とした。この後、英語の歌‘You are my sunshine’の練習をして一時間目を終えた。

Nice to meet you. My name is _____ . I am from _____ . I live in _____ . I like _____ . I play _____ .

(配布したプリント見本)

この英語による自己紹介を全員が終えるのに7～8時間かかったが、これを体験することに

よって、人前で話すことへの抵抗がいくらかでも和らぎ、学級の仲間を知る機会になったようだ。4月中は、この他、簡単な英語の歌やアルファベットの練習、ビンゴゲームで英単語に慣れる指導を行った。また、基礎英語4月号のテープを聴いたり、英語のTV番組‘Anpanman’等を視聴することによって、英語の音にも親しませるようにした。5月に入ってから、教科書の読みや隣り同士やグループでの対話練習を始めた。教科書の文は、暗唱することを条件とした。暗唱は英語学習の基本であると思う。その暗唱も棒読みではなくて、登場人物になりきって、場面を考えながら表現できるよう指導した。

授業開始15時間目からスピーチ活動を始めた。最初の頃のスピーチの内容と生徒の感想を紹介する。(原文のまま)

<A子>

Hello. My name is Mika. I am twelve years old. There are three people in my family. I have no brothers and sisters. I live in Oba. I come to school by bicycle. It takes thirty minutes. Thank you.

(感想) はじめてのスピーチで、しかも学級で一番最初だったのでとても緊張しました。

<B子>

Hello, everyone. I am going to talk about myself. My name is Ai. I live in Nishi-Tsuda. I come to school by bicycle. How do you come to school? I am interested in fishing. But I don't like eating fish. I like tennis and I play tennis. I practice tennis after school. Thank you.

(感想) みんなに話したいことがたくさんあって、まとめるのに悩みました。緊張しないように鏡の前で言ったり、母に何度も聞いてもらいました。内容は、知っていた単語を並べつくしたような感じでした。

<C夫>

Hello. My name is Masafumi. I am from Hokki. I usually get up at seven. I come to school by bicycle. I like soccer. Do you like soccer? I like Pere. He is a very famous soccer player. Do you know him? I am going to practice soccer very hard. Thank you.

(感想) 不安だったのは、質問された時、意味が理解できるかということと、その質問にどう英語で答えたらいいかということだった。だから僕は、質問された時に答える言葉Yes, I do.や、Yes, I am.を考えていた。スピーチの声も大きかったと思うし、質問にも大体答えることができた。でも今回は原稿を見てしまったので、次の時は、原稿を見ずにやりたい。

<D夫>

Hello. I am going to talk about my brother. My brother's name is Akihiro. He is eighteen years old. His hobby is listening to music. He lives in Tokyo now. He is a college student. I had a quarrel with him. Now I miss him. Thank you.

(感想) スピーチをしている時、兄のことが頭に浮んできた。内容をしっかり覚えて言えるまでにはいかなかったが、文を作ることはおもしろかった。

5月中旬から始めたスピーチのテーマは、myself, my family, club, sports, my petなどが多かった。聞き慣れたテーマの時は、聞く側の生徒の反応も大きく、質問やコメントもより活発に行われる。しかし、スピーチの内容や、質問、コメントがむずかしい時や、未習の語や文型が使われる場合は、教師がやさしく言いかえたり、日本語で説明することもある。次にその一例を紹介する。

<E夫のスピーチ> (H 4.5.29 第34回教育研究発表協議会 一年公開授業より)

T : それでは、スピーチを始めましょう。Today's speaker is E.

E was absent yesterday. How are you today?

E : I am fine, thank you. New wordsは、tell, watch, in the worldの三つです。(黒板に書いたものを説明する。)

T : (三つの語句の発音練習をさせる。)

E : Hello, everyone. I'm going to talk about TV. I watch TV when I come home.

T : (「何て言っていますか」と生徒に問いかける。)(「家へ帰るとテレビを見るですね」)

E : I watch news and sports news. The news tells us what is happening in the world.

T : (はっきり聞きとれなかったので、The news以下の説明をする。)

E : I don't read newspapers. I only read TV programs. Do you like TV?

Students : (元気よく) Yes.

E : That's all. Thank you. Do you have any questions or comments?

P₁ : What program do you like?

E : I like commics.

P₂ : What music do you like?

E : I like pops.

P₃ : What subjects do you like?

T : 「まず自分の好きな教科を言ってから、質問してごらん」

P₃ : I like science. What subjects do you like?

E : I like English.

T : E likes English. Do you like English, P₃?

P₃ : So so.

P₄ : 「ニュースやスポーツ以外でどういう番組を見ますか、はどう言いますか」

T : 「～以外というのはまだむずかしいね」

E : I like quiz.

P₅ : When do you come home?

T : 「そういう時はgoですね」

P₅ : When do you go home?

E : I go home at seven.

T : When do you go home, P₅?

P₅ : At seven, too.

T : (生徒の挙手がここで止ったので) OK. Thank you very much, E. (拍手)

授業後、VTRを見て感じたことは、教師が口をはさみ過ぎた感がすることと、学級の雰囲気がこの活動に影響を与えることである。英語の時間に限らず、学級全体に何でも話せる雰囲気があるかどうかということが大切である。この学級は他の学級に比べて発言するものが限られている。授業を参観された本校のOBの先生から次のような講評をもらった。

(前略) 生徒のスピーチのあとのやりとりが、今少し生徒の発表と関連づけてできれば最高だと思いました。生徒たちはあらかじめ用意した質問をしているものもいました。そのためにやりとりが不自然になっているようでした。(後略)

(イ) 二学期の取り組み

次に、二学期後半に行われたあるクラスのスピーチ活動を紹介する。このクラスは、スピーチの時間に意欲的に取り組む生徒が多い。

< F子のスピーチ >

Hello, everyone. I'm going to talk about my brother. His name is Yohei. He is sixteen years old. He looks like me. He can play the guitar. He sometimes teaches me. He likes John Lennon. He can play 'Imagine' on the guitar. I sing it to the guitar. 'Imagine' is a very nice song. Do you know 'Imagine'? Thank you. (Thank you.が言い終わらない内に、20名位挙手をする)

P₁ : How tall is he?

F : one hundred seventy. (黒板に170と書かせる)

T : How tall are you, P₁?

P₁ : I'm one hundred sixty-five.

P₂ : When does he play the guitar?

F : After dinner.

P₃ : Where does he play the guitar?

F : In his room.

P₄ : Is he good at playing the guitar?

F : Yes, he is.

P₅ : Which does he like better, playing the guitar or singing songs?

F : He likes playing the guitar better.

P₆ : Do you know 'Yesterday'?

F : Yes, I do.

T : Do you know 'Yesterday', P₆?

P₆ : Yes.

T : Please sing it for us. (どっとわく)

- P₆ : (「ちょっとだけですよ」と言ってYesterdayと歌い出す)「次どうでしたかいね」
T : all my troubles seemed so far away
P₆ : (教師のあとについて途中まで歌った)(全員から拍手あり)
(‘Yesterday’は二学期に少し練習した歌である。Beatlesに興味、関心のある生徒が増えつつある)
- P₇ : You don't have any sisters. Do you want any sisters?
F : Yes, of course.
P₈ : I have one brother. He plays the piano. Does your brother play the piano?
F : No, he doesn't.
P₉ : Do you play the guitar with him?
F : Sometimes.
T : Do you like music, P₉?
P₉ : So so.
T : Have you ever played the guitar? (反応がないので、説明してやると)
P₉ : No, I haven't.
P₁₀ : Why do you like him?
F : (少し考えて) He is kind.
P₁₁ : Is he smart?
F : Yes.
P₁₂ : Do you respect him?
F : Yes. (「ヘエー」という声があがる)
P₁₃ : How old is he?
F : (「さっき言ったけど」) He is sixteen years old.
T : How old are you, P₁₃?
P₁₃ : I am thirty years old. (「エエッ」という驚きの声が聞える)
I am thirteen years old.と訂正する。
- まだ挙手が続いているが、時間の関係で「それでは、あと一人」と言う
- P₁₄ : What does your brother look like?
F : (しばらく考えてから) His hair is ①立っている like Hayashi.
T : He has his hair short. (適確に表現できないので、調べておくことにする。)
F : And his eyes are ②細い。
T : Small? (外国人教師Carroll先生に聞いてみることを約束する)
(後日、分かったこと ①spiky ②almond-shaped)

15分を要したこのスピーチ活動で39人中27人が挙手をした。あてられた生徒は14名。あてられなかった生徒の内8人は、ぜひあてて欲しかった、次回は早く挙手したい—3人、何とも思っていない—2人。質問等したかった内容は、How many brothers do you have? I have one brother. I don't play with him. Do you play with him? What is his another hobby? When is

his birthday? Does he have any books about guitar? などである。

(F子の感想)

スピーチは二回目だったのでそんなに緊張しなかったけれど、やっぱりドキドキしました。質問の意味が分らないとき、先生がさりげなく教えてくれてよかったです。

以上、スピーチ活動の実践例を二つ紹介したが、この活動は常時行い、自分が本当に言いたいことを言うことによって、生徒の発表意欲も高まり、教師が生徒を知り、また生徒同志の理解につながっていく。第一回目のスピーチを終えた生徒の感想をあげてみる。

- 私はどちらかといえば、人のを聞くのが好きです。いろいろなことが分るからです。
- 人前で話すことが私はとてもにが手なので、心の中でおちつけと念じていました。発音やアクセントなど少しでも英語らしく聞えるように努力しました。
- 私は英語がよく分らないのですごく悩みました。でも家の人や先生に手伝ってもらってやっと文が完成したときはうれしかったです。
- 私のスピーチの目標は、完全に覚えて、つまることなく言えることでした。発表の前日、一時間位かけて何回も声に出して練習しました。スピーチを終えて、私にも英語の力がついてきたように思います。これからは内容の濃い、分りやすいスピーチを目標にがんばろうと思います。

(ウ) スピーチ活動についての考察

スピーチ活動について、平成4年12月にアンケートを実施し、メリット、デメリットについて集計した。

○生徒のアンケート (H4.12月実施)

スピーチ活動の良い点

- 話す・聞く力がつく
- 人の前で発表できる
- 辞書で調べたりして、単語がわかる
- 友だちのことがわかる
- 復習になる

良くない点

- むずかしくて意味がわからない
- 発表する人が限られてくる
- あててもらえないと悲しい
- 時間が少ない
- 発表回数にこだわる

メリットとしては、スピーチ活動でねらっている事柄が挙がっていた。この事から、それなりにスピーチ活動の効果を生徒も認めていることがうかがえる。反面、デメリットとして、スピーチ活動を10～15分で行っている時間的制約の不満から生ずる問題点の指摘が感じとれる。また、「発表回数にこだわる」という生徒も若干いた。スピーチ活動への意欲づけや評価に関わる事柄でもあるが、自由にディスカッションが出来る方向で工夫していきたい。

一年生のスピーチ活動は、内容的には限られている。しかし、生徒は、辞書をひき、既習の英文(教科書やNHK基礎英語など)を駆使し、スピーチ活動に取り組む努力をしている。しかし、学年が進むと、話す内容がむずかしくなっていく。この活動がマンネリ化せず、生徒が意欲的に取り組んでいくために、ネイティブ・スピーカーの協力を得ることも考えられる。本

校では、AETの制度は導入されていないが、島根大学法文学部の外国人教師が、各学年毎月一回、わずか一時間ではあるが英語による授業を担当している。一年生の授業では、スピーチ活動の質疑応答に参加していただいている。生徒にとっては、生きた英語を学ぶ格好の場となっている。

次は、外国人教師、Ginny Carroll先生からのスピーチ活動への意見とアドバイスである。(H5.1)

1. What or how do you think about speech activity by the seventh grade in English class?

My first impression is that the students are enthusiastic about this activity. They seem to prepare the speeches well, and they are attentive when someone is speaking. I am surprised that students in their first year of formal study in school can speak with such poise and clarity. In some ways, though, the speeches can sound a little unnatural; this is true for native speakers as well, since none of us gives a speech with the same word or tone as we would use in conversation. In their first year, however, formal—even unnatural—speech is still quite an accomplishment!

One particular strength in the first-year students' speeches are their questions after the formal speech is over. The students formulate good questions, and the speakers usually answer these well. The discussion about the subject is maybe more important for language learning than the prepared part of the speeches.

2. Please tell us how to improve our speech activity.

Because I see such a small part of this activity (only the delivery), I am not sure how to answer. But I do see a few little things about the speeches that might improve this process:

*have students work a little more on expression. They pronounce well, and their vocabulary and grammatical knowledge are good. But the tone is often rather flat. They never smile when they speak. They rarely make eye contact with their classmates. These "little" things can help to make a speech more lively.

*encourage more dialogue as part of the speech activity. Often the speakers ask questions, such as "Do you have a pet?" or "Do you like comic books?" But rarely do the speakers wait for a response. They seem to be using these questions very mechanically, not really expecting a response. The speeches might be more interesting if the student's role were changed to become more of a discussion leader than a speaker. The subject can still be simple: do you like dogs? But the classmates could give their reasons, and the speaker could respond and then offer his own opinion.

<質問1の回答>

① 生徒のスピーチがやや不自然に聞えることがある。② 外国語を学ぶためには、用意されたスピーチよりもあるテーマ (subject) について討論 (discuss) することの方がより大切であろう。

<質問2の回答>

① 表現方法を勉強すべきである。具体的には、tone(音調)、smile(表情)、eye contact(視線)などに気をつければ、スピーチがもっと生き生きしたものになるであろう。

② dialogue(対話)をもっと活発にすべきである。質問する側がたとえばDo you have a pet?とたずねても答えを待つのでなく、ただ機械的にたずねて、本当に答えを期待していない。スピーチをするものが討論のリーダーになって、テーマ(subject)は簡単でもいいから、級友が自分の理由を述べ、スピーチの立場のものが答え、自分の意見を言う、そういう活動にしたらどうか。

Carroll先生の回答は、スピーチ活動をより効果的に発展させていくための理想(目標)として今後生かしていきたい。以前、外国人教師が生徒に、たとえば、Do you like dogs?とたずねて、生徒がYes.と答えると、必ずWhy?と聞かれたことを思い出す。私も授業中、できるだけWhy?と問うようにしている。スピーチ活動も自分の意見と理由が述べられるような英語力をつけていかなければならない。

スピーチ活動についてまとめてみると、次のようなことがあげられる。

- ① 人前で話すことへの抵抗が柔らぎ、学級の仲間を知る機会となる。
- ② 既習の単語・文型を駆使し、発表する内容をまとめるので、既習事項の定着につながる効果と、場面に応じた英語の使い方がわかってくる。
- ③ 質問を聞くこと、それに応える表現に慣れてくる。友達同志のやりとりを自分の時の参考にしている。換言すると、友達の発表を真剣に聞けるようになる。
- ④ 未習の語句や文型を自分で調べるので、予習的に発展することや、語りを豊かにする。
- ⑤ 学級の雰囲気づくりも大切な要素である。何でも発表できる受容的雰囲気を作ることが必要である。

まだまだ改善の余地はたくさんあるが、新学習指導要領のねらいである ①聞くこと、話すことの言語活動の充実 ②生徒の実態に応じ、多様な指導ができること ③英語の習得に対する積極的な態度を養うという三点を充すことが可能な活動であることを確信する。さらに、この活動は継続して行わないと、その効果が期待できないことも確かである。

2. 英語の歌の指導について

言うまでもなく、歌を歌うことは、レクリエーションとして最も楽しい活動の一つと言える。英語の歌というとき、英語国で作詩作曲されたものもあれば、そうでないものもある。そのいずれであっても英語の歌詞がつけられていれば英語の歌と言えるが、当然のことながら、まず、品性を高め、情操を養う上からも健全で高尚な歌を指導すべきであろう。これらの歌を正しく歌い味わう間に養われる音感、発音やリズムにいつその関心を持たせ、語いを豊富にし、英語国民の生活にふれることができるであろう。英語の歌の指導は、レクリエーションであるとともに、英語学習の一環であるという考えのもとに、私は授業に短時間ではあるが、ほとんど毎時間英語の歌を取り入れてきた。

(ア) 今年度の取り組み

平成4年4月から平成5年1月までに、一年生の授業で扱った歌は次のようなものである。

4月	You are my sunshine ABC song	9月	Twinkle, twinkle, little star
	Good morning to you Are you sleeping?	10月	My Bonny ④ We can stand Danny Boy
5月	Edelwise ① Ten little Indian boys	11月	⑤ Yesterday
	Row, row, row your boat ② Sing	12月	Silent night
6月	③ I like coffee	1月	⑥ White Christmas
	Head, shoulder, knees, and toes		⑦ Seven Daffodils
7月	The farmer in the dell		

これらは、教科書やNHK基礎英語に掲載されているものが主である。中でも①、③、④は新文型の導入後に歌ったものである。①は数のかぞえ方、形容詞、複数、②は一般動詞の肯定文、否定文、③は助動詞canを深化補充するために選んだ。②と⑤はポピュラーなものとして、⑥、⑦は季節にふさわしいものからバラエティーに富んだ選曲をしている。

歌の指導は、曲を何回か聴かせ、発音練習、歌詞の意味、歌の背景などを説明したあと全体で練習する。大体歌えるようになると、グループ対抗歌合戦をする。上記の歌の中で歌合戦をしたのは①、②、③、⑥、⑦である。方法であるが、全体練習のあと、8つのグループにわかれ、歌詞を見ないで歌えるように練習する。歌合戦と銘打つと、各グループとも趣向を凝らし、びっくりするようなパフォーマンスを見せてくれる。リコーダー、ピアノ、バイオリンや、時には掃除用具のバケツやチリトリまで楽器として登場することもある。心をこめて歌えることが大切であるが、生徒は回を重ねるごとに、この活動に意欲的に取り組むようになってきた。

ところで、歌の指導において大部分の歌は歌詞どおりに歌えればよいのだが、①と③は替え歌づくりを試みた。次に、③の替え歌づくりの実践を紹介する。

(イ) I Like Coffeeの替え歌づくり (参考資料①参照) への取り組み

- 実際の授業 (平成4年5月29日) (一部改正してある)

第1学年〇組 英語科学習指導案

1. 単元 英語の歌を作ろう
2. 基盤 本時では一般動詞likeを使った歌「I Like Coffee」(基礎英語5月号)を自分(達)の好きなもの、きれいなものに言いかえて、グループで歌を作らせたい。一年のこの時期では、単語や文法事項も限られており、また協力して歌を作り、発表にまでもっていくことに抵抗があるかも知れないが、生徒達の意欲を伸ばし、一人ひとりが生き生きと表現活動に参加できるような雰囲気づくりにも留意しながら指導していきたい。英語の入門期にあたり、英語に親しみ、英語に興味を持たせることが大切であるという観点に立ち、「英語の歌を作る」取り組みの導入段階の授業を試行してみたい。
3. 指導計画 3時間 (本時 ⅔)
4. 本時の学習

スピーチ活動と英語の歌の実践

(1) 目標

- ① 一般動詞・be動詞を使って、身近かな事柄について会話ができる。
- ② 英語の歌「I Like Coffee」を言いかえて、グループで協力して歌を作る。

(2) 学習過程

時間 (分)	教師の働きかけ (発問・指示)	生徒の活動 (生徒の思考と表現)	指導上の留意点	評価の観点
7分	・あいさつ	あいさつ	・あいさつや簡単な会話をし、既習の英語の歌を歌うことによって英語学習の雰囲気をつくる。	
10分	・Speech活動	<p>一般動詞を使って、対話をする。</p> <p>当番の生徒がスピーチを行い、他の生徒から質問を受ける。</p> <p>check</p>	<p>・できるだけ絵や写真を利用して話させる。</p> <p>・はっきりとよく分るように発表させる。</p>	・音量、内容、工夫の点から評価する。
8分	・暗唱	<p>前時に課題としていた Lesson 4 (3) を暗唱する。</p> <p>check</p>	・場面を思い浮かべながら、実際に会話をしているように話させる。	・内容が十分に理解された暗唱であったか評価する。
20分	・歌作り活動	<p>歌 I Like Coffee を練習する。</p> <p>自分の好きなもの、きれいなものを言いかえて、グループで1つの歌を作る。</p> <p>作業の進展状況等を班毎に発表する。</p> <p>check</p>	<p>・各班で、意見を出しあい、一つの歌をつくらせる際に適宜相談にのり、活動の円滑な進展を図る。</p> <p>・各グループの工夫のポイントなどを発表させる。</p> <p>・歌作りを通して、ことばの使い方に関心をもたせる。</p>	・協力しながら取り組んでいるか評価する。
5分	・次時の確認	check	・歌作りを通して、協力と楽しい英語学習の雰囲気の中で、「自ら学ぶ力」を育てる手立てとする。	・単語や英文が正しく使われていたかを評価する。

本時の歌づくり活動の中間発表会の一部を紹介する。

「ぼくたち2班は、I Like Food.好きな食べもの、きれいな食べものについて作りました。人には好ききれいなものがあって、まとめるのに苦労しました。特に長い単語greenpepperをどこに入

れたらよいかも迷いました。」

「ぼくたちは、I Like Sports.です。この題に決めたのは、ぼくたちの班は、全員スポーツが好きだからです。歌うのは大変そうです。単語がいっぱい覚えられました。断っておきますが、きれいなものに教科の名前をあげていますが、しっかり勉強していますので、誤解しないで下さい。」

この中間発表会のあと、グループ対抗歌合戦を行った。各自評価表を持ち（参考資料③参照）、①大きな声で歌うことができたか ②協力しあって歌うことができたか ③工夫されていたかの三つの観点をABCの三段階で評価する。最優秀に選ばれると、ささやかな賞品が教師から手渡される。

次に他のクラスで好評だった作品を紹介する。この作品に使われる単語は人名ばかりで、英語ではないが、歌いやすさから好評を得たと思われる。

題は I Like Sumo.

Handwritten musical score for "I Like Sports". The score is written on six staves. The lyrics are: "I like Soccer I like tennis I like basketball", "I like volleyball I like baseball", "I don't like science I don't like history", "I don't like Japanese I don't like math But", "I like swimming I like ski I like badminton", "I like iceskating I like English best". The score is decorated with drawings of a tennis racket, a basketball, a volleyball, a soccer ball, a badminton racket, and a soccer ball.

Handwritten musical score for "I Like Sumo". The score is written on seven staves. The lyrics are: "I like TV I like sumo I like Waka ha na da", "I like Taka ha na da I like Maeno umi", "I don't like Mito izumi I don't like Konisi ki", "I don't like Musasimaru I don't like Tera But...", "I like Fuzi si ma beya I like Kira rasyo nosuke", "I like Waka ha na da I like Taka hana da". The score includes Japanese annotations: "大相撲のある月" (Month of the Great Sumo), "1・3・5・7・9・11月には", "作詞 相撲好きな8班", "竹司のまひり人", and "二人は兄弟" (Two are brothers). There are also drawings of two people and a sumo wrestler.

生徒達の作品は、
I Like Animals.
I Like Doraemon.
I Like Fruits.
I Like Flowers.
I Like Drinks.など
おもしろく、工夫の跡が感じられるものが多かった。

(ウ) 「英語の歌」の指導についての考察

中間発表会を参観されたある先生から、

「替え歌を作る作業を通して、英語のリズムが自然に体得されていく過程、使いたい単語をどの部分に入れたらよいか苦勞している姿、その中で英語の単語のリズム、アーティキュレーションが会得されている姿、全員が生き生きと学習している姿が印象的であった。」との感想をもらった。

この替え歌づくりの活動は、グループ対抗歌合戦で歌うことにより、その作業過程に学習の要素が含まれていたと思う。楽しみながら学習できるよさが見い出せたように思う。幸い、「I Like Coffee」は、平成5年度版の新しいSunshine English Courseの中の英語の歌にも載せられている。いろいろな替え歌ができることは、とても楽しみでもある。

III. まとめと今後の課題

生徒が意欲的に学習に取り組む授業の実践例を紹介したが、紙面の都合もあり、一年生のスピーチ活動についてと英語の歌の指導に焦点をしばった報告とした。

新学習指導要領の趣味を生かし、21世紀に生き、活躍しなければならない生徒たちは、国際化の進展に対応し、国際社会の中で生きるためには、英語力の必要性が不可欠になってくる。こうした現状をふまえて、聞くこと・話すことの指導充実にいっそう工夫改善を加え、努力していかなければならない。

今後の課題としては、次の点があげられる。

- ① 一年生の授業は、やはり生徒が興味・関心を持ち、積極的に授業に参加するよう考えなければならない。そうしたねらいを満たすスピーチ活動の改善と工夫。
- ② 新学習指導要領の趣旨にそった活動への移行。
- ③ 観点別評価資料の作製。
- ④ 生徒が意欲的に学習に取り組むための教師の働きかけ。
- ⑤ 生徒一人ひとりが、自分の考えを英語で発表できるような指導のあり方。

上記の課題は、他教科にも共通することであるが、まずは英語教育から変えていかねばならないと思う。そのためにも、さらに実践を重ね、「自ら学ぶ力」を備えた生徒の育成をめざして努力していきたい。

IV. 参考文献と参考資料

1. 参考文献

- ① 「自ら学ぶ力」が育つ学習指導……………島根大学教育学部附属中学校 (1992)
- ② 学習指導要領……………文部省 (1989)
- ③ 英語教育……………開隆堂 (1992・11月号)
- ④ 英語教育にロマンを (英語教育実践記録) 三省堂 (1984)

2. 参考資料

資料① 英語の歌 I Like Coffee

I Like Coffee

Original Melody
Ta-Ra-Ra Boom-De-Ay Henry J. Sajres

I like cof - fee, I like tea, I like Jack and he likes ma.
I like Sue and she likes Jim, I like her and she likes him.
I don't like dir - ty socks, I don't like dir - ty looks,
I don't like dir - ty crooks, I don't like holes. But....
I like Jim and I like Sue. I like them and I like you.
I like cof - fee, I like tea, I like Jack and he likes ma.

やさしく、軽快なメロディーにのせて、好きなものと嫌いなものを歌いこんでいます。coffee, tea, Sue, dirty socks, dirty looks などのかわりに、あなたの好きなもの、嫌いなものに言いかえて歌ってみてください。

資料② スピーチ評価表

Speech評価表

氏名 _____

月 日	スピーチした人		テーマ	
1. 音量	2. 暗記	3. 工夫	総合評価	アドバイス
自分のComment				

月 日	スピーチした人		テーマ	
1. 音量	2. 暗記	3. 工夫	総合評価	アドバイス
自分のComment				

資料③ グループ対抗歌合戦評価表

第 ____ 回グループ対抗歌合戦

組 番 名 前 _____

班	歌の内容	元氣よく大きな声で歌うことができたか	なかよく協力しあって歌うことができたか	歌の内容が工夫されていたか	感 想
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					